

# システム開発文書品質研究会

Association of System Documentation Quality

ASDoQ 「アスドック」

<http://asdoq.jp/>

2022 年 2 月 22 日 (火曜日)

栗田 太郎 (ASDoQ 幹事/ソニー)

[taro.kurita@sony.com](mailto:taro.kurita@sony.com)

## ◆ 研究会の目的

- ・システム開発, ソフトウェア開発における文書 (仕様書・設計書・取扱説明書等) の内容の検討, 記述, レビュー, 参照, 活用, 品質等に関する研究
- ・開発現場における文書にまつわる課題に関する研究・情報交換・意見交換・ネットワーキング
- ・システム開発に限らず, 自然言語による読み書きと文書の管理に関する, 基本的な事項の学習と啓発

## ◆ ワーキンググループ (WG)

- ・文書品質モデル活用 WG
- ・文書品質測定 WG
- ・人材育成 WG

## ◆ 主な活動 (2020 年度からはコロナ禍によりオンラインが中心となりました)

- ・年 2~3 回の研究集会 (名古屋か東京で開催することが多い) や, 毎年恒例の夏合宿 (長野, 最近は京都で開催することが多い) の開催. 主に会員が集まる
- ・「ASDoQ 大会」の開催. 会員・非会員問わず参加を募る (今年は 11 月 11 日 (金曜日) に名古屋大学にある野依記念学术交流館あるいは Zoom で開催する)
- ・他団体と協働する. 他団体のシンポジウム等に参加し, 交流する

## ◆ システム／ソフトウェア開発文書の特徴

- ・多種多様な開発対象がある
- ・多種多様な組織, 仕事の仕方 (プロセス), 文書の種類がある
- ・日本語・英語・図記法・表組・形式仕様記述言語等を組み合わせて文書を記述する.  
図表も含めて様々な固有の文法を持つ「言語」がある

## ◆ ソフトウェアの作り方のかたち

・伝統的なソフトウェア (の作り方のかたちのひとつ): 仕様に基づいて作るプログラム  
ム → コンパイル → マシン語プログラム → テストによる検証. 入力 → マシン語  
プログラムの実行 → 出力. (演繹的)

・現代的なソフトウェア (の作り方のかたちのひとつ): 開発と運用と改善 (仕様変更) が統合される. 文書よりもプログラムによるコミュニケーションを基本として, 素早く開発する (アジャイル開発)

・AI (人工知能) はソフトウェアか?: 学習用データの準備 → 学習 → 学習済みモデル  
→ テスト用データによる検証. 入力データ → 学習済みモデルを用いた判断・  
予測 → 結果. (帰納的)

## ◆ 開発現場の課題

- ・私の日本語・英語の読み書き聞き (聴き) 話す能力は絶望的に低い
- ・「取説」がないプロダクト・ソフトウェア・「アプリ」・サービスの素早いリリースと, ステークホルダーとの会話・対話・議論に基づく不断のアップデート
- ・AI の仕様策定とその動作の説明責任

## ◆ コロナ禍における（あるいはサイバースペースにおける）開発・仕事の課題

- ・オンライン会議システムでは「ワイガヤ」が難しい  
(一方で、長く話したり、傾聴したりするのには向いているのかもしれない)
- ・コロナ禍以前よりも相対的に長い時間をかけて、個人が文・文章・文書を書くことが多くなり、文・文章・文書の品質が、品質やコミュニケーションに大いに関係することになった
- ・Google 社によるプロジェクトアリストテレスにおいて、「言語だけではなく非言語の情報についても敏感になり、配慮、思いやり、共感を示すことができる」チーム・環境であることが、生産性の向上にとって重要なことのひとつであると結論づけられているが、この非言語によるコミュニケーションが困難である

## ◆ ニューノーマルに向けて考えていくべき方向性

- ・自然言語や形式言語を用いて書かれた文書を起点としたコミュニケーション
- ・オンラインにおける非言語コミュニケーション

## ◆ 皆さまへのお願い

- ・ASDoQ 大会（11/11（金曜日）@名古屋大学 または Zoom）へのご参加
- ・ASDoQ とのコラボレーションのご提案
- ・ASDoQ へのご入会 → <http://asdoq.jp/>

以上